

# やっさもっさもっさ

1998年 10月20日

発行(社)三原青年会議所  
編集/広報委員会  
三原市皆実町1331-1  
(三原商工会議所内)  
TEL(0848)63-3515  
FAX(0848)62-1141  
インターネットアドレス  
<http://www.tako.ne.jp/~mjc/>

'98三原JCスローガン  
**夢・未来・創造**  
LOOKING FOR TOMORROW

今月号の記事

- 1面 みはら大好き
- 2面 未来に美しい地球を残すために
- 3面 21世紀の高齢者介護支援システム
- 4面 '98ひろしまフォーラムイン三原 / ペットボトル/



誰にでも脳裏に焼き付いている、子どもの頃の忘れられない景色や思い出がある。「原風景」「原体験」と呼ばれるものだ。そして、これらは住む場所や世代によってかなりの差がある。いくら差があろうとも、自分の「原風景」「原体験」を取り戻そうとすることが真の環境改善活動と聞く。つまり、資源再利用型社会が理想郷ではないということらしい。ところで、百年前の環境破壊は、せいぜい一つや二つの町に住む人々の暮らしを変えるだけだった。だが、現代の消費文明のそれは一瞬にして地球の隅々にまで影響を及ぼしてしまう。「原風景」「原体験」やそれにまつわる記憶だけではなく、人間の価値観までも変えてしまうのが現代文明だといえる。予測できる将来の危機がある。環境破壊、高齢化、少子化等...。新しい文明が生み出しているこの現実の問題に対して、過去へ回避することはもはや許されない。今、あらためて、自然とどう対すべきか、自らの教え、態度を確立することが必要だと思う。それは、古い世代の知識人によってではなく、現代社会の中で育つ若い世代にこそ課せられた責任なのではないだろうか。



三原城の鎮守大島稲荷

徳川家縁りの寺、大善寺

三原城本丸正門跡

やっさもっさもっさ

No.252

鞍馬天狗のモデル丹波精蔵の墓のある寿徳寺

眺めのいい万福寺

郷土史家辰川氏作三原城模型

## みはら大好き

## まちかどの宝探し ぼくのわたしのまち探検隊



今回の探検ルート図

いつの時代でも、子どもに必要なのは自らを律し、相手を認め思いやる心だと思います。特に今の子どもたちのおかれている社会環境には、尚更のことと思います。そしてそれが、自分たちの地域やまちを愛し地球規模の視点を持ってくれるものと期待します。

昨年の御調八幡宮での自然体験隊に引き続き、今年地球市民ジュニア育成委員会(赤谷真一委員長)では、自分たちの住むまちの中を探検しようと、探検隊員を募って9月23日に曇り空をふき飛ばすように駅前前に繰り出しました。

前日の東日本を襲った台風の影響のせいか、まだ雲に覆われていた空模様でしたが9時40分、サン・シーブラザを出発した『ぼくのわたしのまち探検隊』37名は、3コース6班に別れてのタウンオリエンタリングを開始しました。班のまとめ役を三原市青少年女性センターのジュニアリーダーの皆さんにお願いし、回るコースの打ち合わせから始まったオリエンタリング。一方、みはらの宝を子どもたちに伝授しようと意気込む青年会議所委員会メンバーの面々、その意気込みが子どもに上手く伝わったかどうかは、参加した子どもたちの地図作りと発表に委ねられていたようです。オリエンタリングで確認したコース図を見入りながら約2時間掛けて探索した隊員たち。途中、RCCのラジオ取材に遭遇しながら最終地点の福祉会館横の三原城舟入櫓址に集合。高崎名人に駒廻しを伝授されたり、髭の録さんの紙芝居と水飴を堪能して、サン・シーブラザに返って行きまし

た。お昼はみはら名物たこ飯。そして、先程探検しながら集めた写真をもとに地図作成と発表です。学校とは勝手が違ったようですが、各コースの報告がなされました。

探検隊員からの報告

東町コースより  
「神明さんのダルマが大きかったです。高さが4.3m、重さ180kg、直径3.5mの竹製。今は3代目。」  
「自分がいつも歩いている駅前が、400年くらい前は海だったことに驚いた。」  
本町コースより  
「お寺の多いのに驚きました。」  
「大島神社から眺める三原の景色がとても綺麗でした。」  
「正法寺にボールの形をしたお墓があって、面白かった。」  
西町コースより  
「西宮神社に土俵の跡があったのは知りませんでした。」  
「大善寺が水戸黄門と同じご紋でした。」  
「初めて、井戸で水を汲みました。」

そして、その締めくくりとして探検隊の歩いたコースがどんな歴史を持っているのか少しでも知ってもらおうと、郷土史家の柏原さんに三原城の歴史を紐解いていただいた探検隊の一日でした。三原駅裏を中心とした三原の史跡名所巡りは、尾道に負けず劣らず以前よりコースとして整備されています。年配の方々から好評で定期的に散策されています。今回の子どもたちだけの街角の宝探し、学校の授業ではなかなか味わえない自分たちの地元の歴史をどう受け取ってくれたでしょうか。多分、今回参加してくれた隊員以外の子供もたちが、同じ場所、同じ物を見ても、今回とは違った感想や意見がきっと出てくると思います。

今度はご家族でまちの探検隊をされてはいかがでしょうか。  
(次頁へ続く)

